



消防出初式

▲出初式で消防表彰を受ける団員たち

1月10日、香美市香北グラウンドで約300人の消防団員・関係者が参加し香美市消防出初式が開催されました。式典では、団員の表彰や機械器具点検、分列行進などが行われ、団員らは防災への決意を新たにしていました。

受章名	本部・分団	階級	氏名
精勤章	暁霞	分団長	市川 誠
	大柘	"	萩野憲生
	片地	"	小松國広
	山田	副分団長	岡部昌二
勤続章	植	部長	宮地泰範
	新改	団員	山崎純平
	美良布	"	依光隆司
	永野	"	大本正樹
	暁霞	"	門脇寛和

香美市消防表彰（表彰基準日 平成27年12月31日）

大宮小の春巻き大好評！

11月15日、パリュエノアの駐車場を会場に1日限りの大マルシェが開催され、大宮小学校6年生が出店し、販売体験を行いました。

大宮小6年生は、総合的な学習の時間のテーマに『食と健康』を選び、香北町の特産品を生かした食品開発を行ってきました。授業の中で児童は、山田高校商業科で食品開発の経験談を聞いたり、試食会を行ったりしながら試行錯誤を重ね、香北の野菜がたっぷり入った春巻きを作りました。

当日は多くの来場者でにぎわい、200本の春巻きを2時間で完売しました。この体験を通じ、一つのことをやり遂げる達成感を味わい、お客さんから「おいしい」と言ってもらう喜びや、接客の楽しさを感じることができたようです。児童らは、「たくさんの人たちの協力や応援を忘れず、これからの取り組みも頑張りたい」と話していました。



▲各小学校の児童が大きな声で自慢の商品を売り上げた

12月27日、土佐山田町の日曜市で、香美市KYO子ども祭りが開催されました。

これは、市内の小中高生が香美市のことを話し合う香美市子ども会議で発案されたもので、子どもたち自身が主体的に企画運営を行って実現しました。『KYO』は、香北・山田・大柘の頭文字で、香美市の子どもたちが一つになって盛り上げようという思いが込められています。

当日は各学校が出店し、特産の野菜やゆず、もち米、手作り春巻きなど多彩な商品を販売したほか、ステージでは、学校で学習したことの発表やいざなぎ流舞神楽の実演などが行われました。

会場はあふれ返るほどの人でにぎわい、訪れた人たちは、「子どもたちの活気のある声でこっちまで元気になるねえ」と笑顔を見せていました。



◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

綿虫や山家の餅は太かりし
 ひつじ年残りわづかに年暮れる
 古希を過ぎ喜寿も越えきて春の宴
 ふる里の話懐かし年賀客
 冬空の青極まれば音の無き
 亡き父の未完を想ふ冬木立
 婆一人師走の餅を搗きにけり
 音沙汰の無き人ありて寒見舞
 白詰草の四ツ葉探して田圃徑
 菊の塔前に並ぶは八十路連れ
 暖冬やスミレタンポポ花咲きて
 新風呂の煙る山家や冬日落つ
 木蓮は綿帽かぶり春を待つ
 にぎやかにぬき日射しに注連作り
 四方山の話持ち寄り日向ぼこ
 余生とはいつからの事日向ぼこ
 紅蜜柑植えて八年紅たわわ

◆美良布俳句会◆

年の暮たつたひとりの無人駅
 綿虫のとびて田の神祀るころ
 数え日やしたたか打ちし向う
 手をつなぎ幼子と見るやつこ風
 三年へ期待を込めて日記買う

福留しものり
 三木 牧子
 三谷 誠郎
 森岡 秀野
 森本 純喜
 森本 幸美
 山崎 寿美
 山崎 貴子
 都築 忠義
 五百蔵利美
 坂本美智子
 上池 児未
 岡本 初美
 楮佐古きよ
 岡田美代子
 相澤 睦子
 有澤 春江

年暮るる母似の鬢に白髪かな
 荷物詰め柚子湯するよう走り書き
 絡み合う脚が仲よし掛大根

◆かがみ野俳句会◆

水仙や胸底に期すものあり
 一日を使ひ切つたる年の暮れ
 古民家の主となりしすきま風
 築百年夫婦仲よくすきま風
 枯尾花終の命の輝けり
 スリッパの爪先ほつれ十二月

◆かほく俳句会◆

数へ日を連れて地区長来りけり
 冬もみぢ敢て歳には逆らはず
 冬ざくら老いて力まず怠らず
 夕空は明日の小春日約束す
 谷の家は家族葬とか暮早し
 蕨紅葉崩れかけた蔵の壁
 教へ子の離婚話や踏む落葉
 ひめ椿恋の終りははらはらと
 柚子採って仕舞へば星の寂しかり
 心まだ老いぬ自負あり年の暮
 選句する黙も団欒納め句座
 ひと吹き北風に北辰斜めなる
 数へ日のひと時を子と温泉に浸る
 一斉に鳥翔ち元の枯木立
 樟脳の微かに匂ふ冬座敷
 住み古りて土佐の大寒耐へ易し
 百姓で生きて行ききたし日記買ふ
 父母の忌の近づき石路の花咲きぬ

前田 芳子
 中内ゆかり
 竹内 ろ草
 佐竹 洋子
 古川 信子
 利根 弘子
 森本 健子
 山崎 鈴子
 中澤 美晴
 乾 真紀子
 奥宮さとみ
 黒岩千英子
 榎山 高子
 小松 隆之
 小松 昇
 杉山 春萌
 野村 里史
 前田 欣一
 前田 智
 間崎 和代
 宮崎ただし
 宗石 愛喜
 森本 之子
 山崎かずみ
 山中 晶子
 山中 瑞輝
 山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

パチンコ屋の軍艦マーチ年の暮
 本堂で祈る菅笠冬の雨
 レジ打ちもスピードアップ年の暮
 これよりは結界なるぞ山眠る
 賀状書く圧力鍋のふいている
 蕪村の忌間違い電話の向う側
 捨てるもの即時決断日の短か
 戸締りをまたも確かむ霜夜かな
 笑わせて泣かせる法話実千両
 陽だまりを追って父待つ大根引き
 理髪店出て空仰ぐ十二月

明石 蕪生
 笹岡 英世
 森田 貞男
 西内 道彦
 前田美智子
 安丸 慎子
 森田 菊恵
 大石 邦男
 橋本 昭和
 榎谷 雅道
 田村 一翠

◆今月のキラリ◆

薪風呂の煙る山家や冬日落つ
 冬の日が傾き、迫り来る夕闇。家々に風呂を
 焚く煙が立ち、一灯点つた厨に人影が見える。
 誰もが記憶の底に持つ日本の夕景である。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
 ▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
 ▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
 投稿先 総務課内広報委員会事務局（俳句・短歌係）
 〒782-18501（住所記載不要）FAX 53・5958